

第5回 安来市総合計画審議会 議事要旨

1. 開催概要

日 時 令和7年11月6日(木) 14:00~16:00

会 場 安来市役所安来庁舎 3階 防災対策室

出席者 以下のとおり

【審議会委員（出席：14）】

(敬称略)

所 属	役職	氏 名	区分	備考
学識経験者		勝部 慎哉	学識	
島根県立大学	准教授	高須 佳奈	学識	
学識経験者		野々村 千映子	学識	
米子工業高等専門学校	准教授	川戸 聰也	学識	
安来商工会議所	事務局長	渡部 仁	産業 (商工)	欠席
島根県農業協同組合やすぎ地区本部	企画総務部長	矢田 篤	産業 (農業)	
社会福祉法人 安来市社会福祉協議会	副会長	小松原 勝之	医療・福祉	
安来市自治会代表者協議会		矢田 洪介	市民団体 (自治会)	
安来市労働組合協議会	議長	松田 英樹	労働団体	
安来市観光協会	会員	醍醐 靖幸	産業(観光)	欠席
一般社団法人 安来青年会議所	理事長	矢田 敦子	産業	欠席
安来市子ども・子育て推進会議	委員	角 陽子	市民団体 (子育て)	欠席
安来市PTA連合会	家庭教育委員長	来海 雄馬	市民団体 (教育)	欠席
やすぎボランティア団体ネットワーク	会長	板持 潤一	市民団体 (NPO)	
松江公共職業安定所安来出張所	所長	中村 明臣	官公庁 (労働)	欠席
安来金融会	幹事	重道 直樹	金融機関	
株式会社山陰中央新報社	米子総局長	藤井 満弘	言論	

一般公募		寺田 琢磨	一般	
一般公募		石田 優美	一般	
一般公募		中村 高志	一般	

【事務局】

部 署	職 名	氏 名	備考
安来市政策推進部 政策企画課	部長	宇山 富之	
〃	係長	吉原 秀和	
〃		清水 仁志	

【委託事業者】

会社名	氏 名
株式会社エブリプラン	森田俊作、鶴見太郎、加納里彩

2. 議事次第

- 1) 開会
- 2) 会長あいさつ
- 3) 議事
 - (1) 第3次安来市総合計画基本構想（案）について【資料1】
 - (2) 第3次安来市総合計画基本計画（案）について【資料2】
 - (3) 第3期安来市創生総合戦略（案）について【資料3】
 - (4) 答申（案）について【資料4】
- 4) その他
- 5) 閉会

3. 配布資料

- ・ 次第
- ・ 審議会委員名簿
- ・ 【資料1】第3次安来市総合計画基本構想（案）について
- ・ 【資料2】第3次安来市総合計画基本計画（案）について
- ・ 【資料3】第3期安来市創生総合戦略（案）について
- ・ 【資料4】答申（案）について
- ・ 【資料5】委員意見回答
- ・ 【資料6】資料編骨子
- ・ 【資料7】今後のスケジュール

4. 議事

事務局より、資料に沿って説明を行った。

(1) 第3次安来市総合計画基本構想（案）について【資料1】

<質疑応答>

発言者	発言の要旨
委員	少し言葉遣いについて意見させてください。15ページの将来像を説明する文章の下から4行目に「人の心を安らがせる豊かな未来」とありますが、「安らがせる」という言葉に少し違和感があります。「安らぎをもたらす」などに修正してはいかがでしょうか。もう一点、23ページの「シンカワーク」の5行目に「安来市の基本姿勢となったシンカ」とありますが、主体が分かりにくいので、「基本姿勢としたシンカ」として、この審議会が市の姿勢として定めた、というニュアンスにしてはどうでしょうか。
事務局	ご指摘ありがとうございます。いずれもごもっともなご意見ですので、適切な表現になるよう修正を検討したいと思います。
委員	11、12ページの農業の写真についてです。「テクノロジーを活かした新しい農のあり方」とありますが、掲載されている写真は土耕栽培に見えます。もちろん土耕栽培にも新しい技術はありますが、テーマを表現するなら、もう少しテクノロジーを活かした栽培方法だと分かるような写真にされてはいかがでしょうか。
事務局	ご指摘ありがとうございます。現在の写真はイメージですが、本番の写真では、イチゴの高設栽培を行っている農家さんの写真を掲載する予定です。ご指摘の趣旨に沿った写真になるかと考えております。
委員	写真についてですが、キャプションのような説明はないのでしょうか。写真だけだと、見たことがない人は何の写真だろうと思ってしまうかもしれません。
事務局	写真につきましては、基本構想の冊子内では特に説明を設けず、総合計画全体の巻末に付ける資料編の方で、掲載写真の情報を記載する予定です。
委員	別の場所で掲載するのですね。個人的には、写真の近くにあった方が分かりやすいと思いますが、いかがでしょうか。
事務局	ご意見ありがとうございます。考え方が2つありますと、ご指摘のように説明があった方が親切だという考え方と、説明書きが入ることで、せっかくの写真から視線が逸れてしまうという考え方もあります。現段階では後者の考え方で作成しておりますが、ご意見として承ります。
委員	この基本構想は、単独で配布されるものでしょうか。もし単独で配布されるのであれば、この資料の中に写真の説明があった方が親切だと思います。写真と同じページでなくても、巻末に補足としてまとめる形でも良い

	かと思います。
事務局	前回の計画では、冊子をかなりの数を印刷して配布しましたが、今回は冊子を大量に印刷することは考えておりません。基本的には総合計画として、基本構想、基本計画、資料編が一体となったものと考えております。ただ、ご指摘のとおり、ホームページなどで基本構想だけを切り分けて掲載する際には、写真の説明がないと分かりづらくなる可能性もございますので、その点も踏まえて検討したいと思います。

(2) 第3次安来市総合計画基本計画（案）について【資料2】

<質疑応答>

発言者	発言の要旨
副会長	計画全体を見ていて、基本構想と基本計画の間に、計画全体の構造を示すページがないため、つながりが分かりにくく感じました。基本計画が7つの章に分かれ、さらに節に分かれているという全体像が一覧できるような、目次のようなものが必要ではないでしょうか。
事務局	ご指摘の通りです。章や節が一覧でわかるような、計画の全体像を示すページが抜けておりました。目次とは別に、構成がわかるようなページを追加したいと思います。
副会長	あわせて、基本構想で示された3つの「シンカ」が、この基本計画の各項目とどのように関連しているのかが見えにくいと感じました。この横串のつながりを示さないと、市民の方には関係性が伝わりにくいかと思います。また、市民に伝えたい部分については、QRコードを掲載してウェブサイトの詳しい情報に誘導するなど、より伝わりやすくする工夫もご検討いただけないでしょうか。
事務局	ご意見ありがとうございます。検討いたします。
委員	3点質問があります。まず、4ページの「地域福祉の充実」という項目で、「民生委員、児童委員、ボランティア活動等の支援体制の強化」という取組方針に紐づく「主な事業」は具体的にどれになるのでしょうか。 次に、8ページの「障がい者福祉の充実」の取組方針にある「障がいの有無によらず幅広い分野で活動できるようにする」という表現についてです。「障がい者福祉」の項目でありながら、障がいのない人も対象に含まれるような表現に違和感があるのですが、いかがでしょうか。 最後に、全体を通してですが、市民がこの計画を見て、特定の事業について問い合わせたいと思った際に、どこに連絡すればよいか分かりません。先ほどQRコードの話もありましたが、担当課などを記載することは難しいのでしょうか。
事務局	まず、2点目の「障がいの有無によらず」という表現についてですが、

	ご指摘の通り誤解を招く可能性があるかと存じます。表現についてこのままで良いか、担当課と再度協議し、必要であれば修正いたします。
委員	その表現についてですが、「障がいの程度によらず」という意味合いかと思いました。障がいのない人も含まれると読めるので、私も少し疑問に感じました。
事務局	<p>「障がいのない人と同じように」という意味合いで使っておりましたが、ご説明不足で申し訳ありません。意図が伝わる表現を検討します。</p> <p>3点目の担当課の記載についてですが、この計画は5年という長いスパンのものであり、その間に市役所の組織改編などで担当課が変わる可能性があります。古い情報が掲載され続けることで、かえって混乱を招く恐れがあるため、担当課の連絡先の掲載は難しいと考えております。</p> <p>1点目の地域福祉の事業に関するご質問ですが、今すぐには明確にお答えできないため、確認して改めて板持委員にご回答させていただけますでしょうか。</p>
委員	目標指標についてですが、5年後の目標値が示されていますが、これは5年後に評価をされるという理解でよろしいでしょうか。また、進捗の評価は誰がどのように行うのでしょうか。
事務局	はい。各指標の進捗については、毎年度、市議会に報告しております。また、この計画の中から人口減少対策に関連する事業を「総合戦略」の事業として位置付けており、そちらについては外部委員による評価を受けることになっております。
委員	その評価によって、計画の方向修正なども行われるのでしょうか。
事務局	計画期間の途中で目標値を変更することは現実的ではありませんが、進捗が思わしくない事業については、アプローチ方法、つまり取組の進め方を見直すといった対応になろうかと思います。
委員	4ページにある「8050問題」や「ヤングケアラー」といった用語にカギ括弧がついていますが、意見への回答資料では注釈をつけることでした。この用語集はどこに掲載されるのでしょうか。
事務局	現状では巻末の資料編に用語集を掲載する予定です。ただ、ボリュームによっては、基本計画の中に掲載した方が分かりやすいということもうかと思いますので、最終的な掲載場所は検討させていただければと思います。
委員	担当課の記載についてですが、市民の立場からすると、SDGsのアイコンよりも、どの課が担当しているのかが分かる方がよほど重要だと感じます。子どもや高齢者のための事業を市役所のどこがやっているのかが分かる方が、計画が身近に感じられるのではないでしょうか。

事務局	先ほど申し上げたとおり、情報が古くなるリスクがございます。市では、毎年度初めに市の業務と担当課の連絡先を記載した一覧を全戸配布しておりますので、そちらでご確認いただくという方法ではいかがでしょうか。
委員	その一覧には、この計画に載っているような個別の事業名までは記載されていないですよね。
事務局	はい、事業名までは載っておりません。事業自体も新しくなったり、継続しなかったりすることもありますので、個別の事業に担当を割り振るよりは、業務や分野で担当を捉えていただいた方が良いかと考えております。
委員	例えば、第1章第1節の主な事業4つは、担当課がそれぞれ違うということですか？
事務局	はい、その通りです。例えば、第1章第1節ですと、「健康やすぎ21」はいきいき健康課ですが、市立病院に関するものは市立病院や地域医療推進室が担当しており、節の中でも担当課は様々です。
委員	先ほど、主な事業も5年間で変わる可能性があるとおっしゃいました。事業が変わることもあるなら、担当課が変わることもあるというのも同じことではないでしょうか。市民がこれを見たときに、まずどこに聞けばよいのか、その入口だけでも示せると良いのですが。
委員	ホームページ上で対応するという方法も考えられます。例えば、ホームページ上で事業名を選ぶと担当課が表示されるような仕組みがあれば、印刷物よりも更新が容易かと思います。
事務局	ホームページの各事業のページには、基本的に担当課の連絡先は記載しております。ただ、これはあくまで総合計画という全体方針を示すものであり、個別の事業紹介の冊子とは性質が異なります。どこまでの情報を載せるべきかという点もございますので、ご理解いただければと思います。
副会長	皆さんのご意見を伺っていると、2つの側面があるように感じます。一つは、個別の事業について実務的に問い合わせたいというニーズ。もう一つは、市民として市役所の誰が自分たちのために何をしてくれているのかを知りたいというニーズです。 後者の視点から考えると、厳密な担当課名でなくとも、「第1章は主に〇〇部が担当しています」といった大枠での記載であれば、市民の理解も進み、情報が古くなるリスクも少ないのでないでしょうか。事務局の方で、そういった観点から再度ご検討いただくことはできませんでしょうか。
委員	単純なことですが、目標指標の「R12」という表記は、我々はずっと審議しているので分かりますが、市民の方には分からないかもしれません。

	「R12目標」など、もう少し分かりやすい表記が良いと思います。
委員	<p>イメージを重視した基本構想から、急に文字ばかりの基本計画に移ると、ギャップが大きいと感じます。先ほど目次の話がありましたが、もう少し柔らかいイメージの橋渡し的なページがあると、市民の方も読み進めやすいのではないでしょか。</p> <p>特に、若い世代に興味を持ってもらうためには、「保健医療福祉分野」といった硬い表現だけでなく、もっと分かりやすい言葉で伝える工夫が必要だと思います。</p>
委員	<p>各章のタイトルに「安」という字を使われていますが、少し無理があるように感じます。第1章の「安穏」、第4章の「安泰」、第6章の「安寧」など、若い人には馴染みがなく、かえって古臭い印象を与えてしてしまうのではないかでしょうか。</p>
副会長	<p>確かに、「安」の字だけで7つの異なる言葉を探すのは大変だったと思いますが、「安穏」という言葉には少し違和感を覚えました。「安らか」で良いのに、無理に市の名前に掛けなくても良いのではと感じます。</p>
委員	<p>市の広報誌「どげなかね」は、硬い内容と柔らかい内容のバランスが良く、非常に読みやすいです。ああいったものを参考にされてはいかがでしょうか。</p>
副会長	<p>「安」の字だけでなく、「安来」の「来」の字を使って、「未来」のような言葉を入れるのも良いのではないかでしょうか。</p>
事務局	いただいたご意見を踏まえ、再度検討させていただきます。

(3) 第3期安来市創生総合戦略（案）について【資料3】

<質疑応答>

発言者	発言の要旨
委員	<p>将来人口についてお伺いします。以前いただいた第2次総合計画の資料では、2060年には人口3万人を目指すとありました。しかし、本日いただいた資料のグラフを見ると、2060年の目標人口は2万2,800人となっています。このままでは人口がどんどん減っていく中で、市のサービスが維持できるのか不安になります。第2次計画の目標が達成困難であることは分かった上での修正案だとは思いますが、この人口減少について、市としてどのようにお考えかお聞かせください。</p>
事務局	<p>第2次計画では2060年に人口3万人を目標としておりましたが、現実との乖離が大きかったため、今年の3月に人口ビジョンを見直しました。目標年を2070年に先送りし、目標人口も2万人へと下方修正いたしましたが、何もしなければ1万5,000人まで減少すると推計される中、5,000</p>

	人の上積みを目指すというのは、市としてもかなり挑戦的な目標であると認識しております。まずは、この計画期間内の目標である2030年的人口3万2,600人の達成に向けて、事業を進めていきたいと考えております。
委員	担当の方も数年で代わられる中で大変だとは思いますが、人口減少は市の最重要課題だと思います。市としてやっていけるのか、ふと心配になることがあります。
副会長	この総合戦略について、どのような観点で意見を述べればよいのでしょうか。内容そのものについてなのか、資料の見せ方についてなのか、論点が分からず少し戸惑っています。
事務局	基本的には、総合戦略の内容そのものについてご意見をいただきたいと考えております。この内容は、総合計画の冊子の一部として掲載する予定です。
委員	4ページの基本目標4「一人ひとりが活躍できる安来市をつくる」の数値目標であるウェルビーイング指標「やりたい仕事を見つけやすい」「新たなことに挑戦・成長するための機会がある」には、一覧表にあるどの事業が対応するのでしょうか。
事務局	特定の事業が一つだけ対応するというよりは、これらの目標に少なからず寄与すると考えられる事業を選定しております。例えば、「シルバー人材センター会員の就業率」なども、「新たな仕事が見つかる」という観点から関連事業として位置付けています。
委員	「地域づくり支援事業」は市民活動の支援に含まれるのでしょうか。ボランティアなど、様々な形で活動されている市民の方々がいらっしゃいます。こうした活動を支援することが、若者が地元に残るきっかけになるかもしれません。総合計画全体を通して、市民活動に対する言及が少ないようになります。
事務局	基本目標4「一人ひとりが活躍できる安来市をつくる」には、仕事だけでなく、地域での活躍や関係人口の増加といった視点も含まれています。市民活動が活発になることは、人々が地域に参加する機会を増やし、目標達成にプラスに働くと考えており、こうした視点から事業を選定しております。
委員	基本目標1「若者や女性にも選ばれる安来市をつくる」の施策一覧を見たとき、女性に関するものが「マタニティ応援プロジェクト事業」だけのようで、少し偏っているように感じました。他に女性の活躍を応援するような事業はないのでしょうか。
事務局	直接的に「女性」という言葉を使った事業は少ないですが、例えば「市内企業の就職率」といった指標の中には、女性が選びたいと思えるような職種の企業を誘致していく、といった視点も含まれています。

委員	施策一覧の指標で、例えば「中学生が安来のために何かをしてみたい」という項目の目標値が、令和7年度の85.2%から令和12年度には85%へと、わずかに下がっています。目標なのに数値が下がるというのは、事情を知らない市民が見たら疑問に思うのではないですか。
事務局	ご指摘ありがとうございます。この項目は現状値が非常に高いため、維持を目指すという趣旨で設定しておりましたが、数字だけ見ると目標が下がっているように見えます。担当課と協議し、表現を調整したいと思います。
委員	現状値が高いので維持を目指す、というような補足説明を記載することはできないのでしょうか。数字だけでは意図が伝わりにくく感じます。
事務局	この総合戦略の資料はまだ骨子段階ですが、基本計画の方では、指標の横に矢印を付けて、向上を目指すものか、現状維持を目指すものか、視覚的に分かるようにしております。総合戦略の方でも同様の工夫を検討します。
副会長	この総合戦略が、基本計画とどういう関係にあるのか、少し分かりにくいと感じました。6ページの章・節番号が基本計画と対応していることは分かりますが、基本計画が主に市民の暮らしに関する5年間の計画であるのに対し、この総合戦略は50年先を見据えた人口減少対策という位置づけである、といった説明がないと、市民には理解しづらいのではないかでしょうか。
事務局	ご説明不足で申し訳ありません。この総合戦略は、総合計画の中から特に人口減少対策に関するものを抜き出したものであり、また、委員の皆様に外部評価をいただく事業でもあるため、本日議題としてご説明させていただきました。
委員	「中学生が安来のために何かしてみたい」という指標ですが、中学生までは地域とのつながりが強いものの、高校、大学と進むにつれて、地域との関わりが薄くなる期間があると思います。その空白期間にある世代が地域に対してどう思っているか、という数値の方が重要ではないでしょうか。
事務局	おっしゃる通り、その期間も重要です。そのため、「市外に出た大学生等へのアプローチ」や「高校魅力化事業」など、他の事業でその世代への働きかけも行っております。中学生へのアプローチも、将来的なUターンなどを見据えた愛着度向上の一環として位置付けております。
委員	基本目標の愛着度は全市民を対象に調査しているとのことですが、指標としては全体の数値だけを出すのでしょうか。世代別のデータも把握できるのであれば、そちらも重要だと思います。
事務局	データとしては世代別のものも把握しますが、基本目標の指標としては、

	市全体の数値を設定したいと考えております。
副会長	基本目標1「若者や女性にも選ばれる安来市をつくる」の数値目標には、なぜウェルビーイング指標を使われなかつたのでしょうか。関連する基本計画の第2章では、多くのウェルビーイング指標が使われています。例えば、「暮らしている地域では教育環境が整っている」といった指標を、こちらの目標に使っても良いのではないですか。
事務局	数値目標の設定にあたっては、基本的には客観的な統計資料などから数値を拾えるものを優先して選んでいます。基本目標1は具体的な指標が設定可能でしたが、基本目標4や5などは、客観的な統計指標がないため、市民の意識を問うウェルビーイング指標を採用しております。ご提案いただいた指標の追加については、検討させていただきます。

(4) 答申（案）について【資料4】

<質疑応答>

なし

5. その他

事務局より、今後のスケジュールについて、資料5に沿って説明を行った。

6. 閉会

事務局よりあいさつ

以上